

コンケン大学教育学部日本語教育プログラムにおけるカリキュラム

坪根由香里

1. はじめに

タイにおける日本語教育は近年大きな伸びを見せており、世界の中でも学習者数が大きく増加している国の一つである。高等教育機関については、地方大学を中心に日本語の主専攻を開設する大学が増えている。コンケン大学のある東北地方でも、2004年にコンケン大学教育学部、2005年にコンケン大学人文社会学部、隣県のマハーサラカム大学、2006年にはウボンラチャタニ大学が相次いで主専攻を開設している。また、全国のラチャパット大学においても主専攻化が進んでいる。一方、中等教育機関でも学習者数が大幅に伸びているという。

このような状況の中でコンケン大学教育学部に日本語中等教員養成のためのプログラムが新たに作られた。コンケン大学はタイ東北地方の中核大学であり、教育学部の歴史も長い。教員養成のための日本語教育を主専攻とするプログラムがタイで開設されたのは本大学が初めてである。筆者は国際交流基金日本語教育専門家として2005年4月にコンケン大学教育学部に派遣され、カリキュラム改定を始め、新プログラム運営のための様々な業務に取り組んできた。本報告書では、コンケン大学教育学部日本語教育プログラムの概要について若干の説明を行ったうえで、日本語教育専攻のカリキュラムについて述べたい。

2. タイの日本語教育事情とコンケン大学教育学部日本語教育プログラム開設

国際交流基金の「2005年度日本語教育国別情報」によると、タイにおける日本語教育機関数は274機関、教師数864名、学習者数54884名で、学習者数は韓国、中国、オーストラリア、アメリカ、台湾、インドネシアに次いで世界で第7位である。このうち、「中国、インドネシア、タイでこの5年間に学習者が大きく増加」（国際交流基金日本語国際センターホームページ）したということである。また、国際交流基金バンコク日本文化センターが独自に実施している日本語教育機関調査（2004年1月現在）によると、とくに初・中等教育段階での増加が顕著で、218機関が日本語コースを開講、教師数は307名である。初・中等教育段階での増加とあるが、実際は中等教育後期（高校）で特に広がりを見せており、民間の日本語学校での学習者も増加傾向にある。

タイの初・中等教育機関では、公務員資格を持った正規の教員になるためには教員資格を持っていることが条件であり、そのためには教育学部を卒業する必要がある⁽¹⁾。タイの大学の教育学部は2004年から5年制になり、5年生の1年間は教育実習を行うことになった。これまでタイの大学では人文社会学部や文学部には日本語主専攻があったが、教育学部には日本語教育専門のコースはなかった。そのため、1993年より教育省と国際交流基金バンコク日本文化センターの共催

で「中等学校現職教員日本語教師新規養成講座」を開講し、他の科目を教えている現職教員に対して日本語を教えるという形で日本語教師の養成をしていた⁽²⁾。コンケン大学教育学部に日本語教育プログラムができたことにより、大学で日本語教育を学んだ中等教員が誕生することになる。

3. コンケン大学教育学部日本語教育プログラムの概要

3.1 プログラムの目標

本プログラムの目標は、日本語と日本語教育という2つの柱を持つ。日本語に関しては、中等教員養成ということを鑑み、初級の学習項目の理解を最重点課題として、2年をかけて初級を教え、3年生で日本語能力試験3級に全員合格することを目指す。また、一般的にタイの大学の日本語専攻の場合、4年生までに2級合格を目指すところが多いが、本プログラムでは5年間かけて卒業までに2級合格を目指す。ただし、5年次は実習のみで大学における授業はなく、2級の学習内容をすべて授業でカバーすることができない可能性があるため、その後の継続的学習のため、4年次までに自律的学習能力を養う必要がある。もう一つの柱である日本語教育に関しては、中等教育機関で日本語を教えるための教授能力の育成を目指す。中学・高校の生徒たちに教えるのは、一般的に大学で行われている日本語の教授法ではうまく行かないこともあり、年少者への日本語教育も視野に入れ、いかにして飽きさせないように楽しく日本語を学ばせるかという技術も必要になるため、その点も意識した授業内容になっている。

3.2 プログラムの概要

3.2.1 定員と在籍人数

主専攻の一学年の定員は25名で、2007年3月現在3年生22名、2年生20名、1年生33名が在籍している。その他、選択科目として他専攻の学生のための一学期の日本語コースも開講している。

3.2.2 履修単位数

タイの教育省が提示している教育学部におけるカリキュラムの指針及びコンケン大学教育学部日本語教育プログラムの履修単位は、以下の通りである。

表1 教育省によるカリキュラム指針とコンケン大学の履修単位

	教育省	コンケン大学教育学部
専門科目	75 単位	日本語 60 単位、周辺科目 24 単位 計 84 単位
教職科目	教育科目 42 単位、教育実践 14 単位 計 56 単位	教育科目 33 単位、教育実践 17 単位 計 50 単位
一般教養科目	31 単位	30 単位
選択科目	6 単位	6 単位
計	168 単位	170 単位

教育省の指針が168単位、本プログラムが170単位であり、教育学部の中では標準的な数字である。一方、日本語専攻コースの総履修単位数は135～140単位のところがほとんどであり、それに

比べると5年次の教育実習12単位分を引いた4年間で158単位という数は、かなり多いと言える。

4. 旧カリキュラムの特徴と問題点

本プログラムはタイの大学で初めての日本語教育主専攻コースで、タイ国内に参考にできる他機関がないため、カリキュラム作成は大きな課題であった。2004年の開講時は日本語教育専門家の派遣前で、現行の旧カリキュラムは、本プログラムのプログラム長であるタイ人教師がタイのタマサート大学、チュラロンコン大学の日本語専攻のカリキュラムを参考に作成したものである(表2)。筆者の派遣と同時にプログラム長よりカリキュラムの見直しが依頼された。

そこで、タイ国内の日本語学専攻を持つ大学、他国の大学の教育学部日本語教育専攻、日本の大学のカリキュラム資料を収集し、本プログラムのカリキュラムとの時間数、単位数、科目内容等の比較・検討を行った。

4.1 旧カリキュラムの特徴

収集した他機関の資料と比較しての本プログラムのカリキュラムの特徴は以下の通りである。

①教育を意識した科目が多い。

教育学部内のプログラムであるということを反映して、Education in Japan、Teaching Japanese as a Second Language、Japanese for Cultural Education⁽³⁾、Research in Japanese Classroom と、教育を意識した科目が多い。

②日本社会・文化に関する科目が多い。

Introduction to Japanese Culture、Contemporary Japan、Seminar in Japanese Society and Culture、Independents Study Related to Japan と日本社会や文化に関する科目が4科目ある。

③翻訳・通訳、観光・ビジネス・ホテル日本語のような科目がない。

プログラムの目的が教員養成であるため、多くの日本語学科に見られる上記科目がない。

④日本文学の科目がない。

近代・現代日本文学や日本文学史も開講されていない。

⑤教育実習コースがある。

5年次の実習の他、教職科目の中で1年次より付属学校での様々な活動が組み込まれている。

このように、教員養成というプログラムの目的を意識し、日本語や教育関係の科目はもちろんのこと、日本語教師は日本文化や社会についても理解を深めておくべきであるという意図が表れている。

4.2 旧カリキュラムの問題点

一方、旧カリキュラムには以下の問題点があることがわかった。

①4年生までの授業時間数が多い。

他機関のカリキュラムから1学期15週として授業の総時間数を計算してみたところ、少ないと

ころで約 1900 時間、多いところでも約 2600 時間であったのに対し、本プログラムは 5 年次の実習を除いた 4 年生までの科目で約 3000 時間あった。多い時には週に 28 時間の授業を受けることになっている。同じコンケン大学人文社会学部の日本語プログラムが約 2130 時間、教育学部の数学教育プログラムが約 2500 時間であることから、この時間が非常に多いということがわかる。この原因は、教育学部であるための総履修単位数の多さに加え、単位あたりの時間数が多いことにある。多くの機関では総合日本語のクラス以外は 3 単位 3 時間である場合が多いが、本プログラムではほとんどの科目で 3 単位 4 時間あるいはそれ以上となっていた。

②日本語教育関係の科目が少ない。

前項で教育関係の科目が他機関に比べて多いことは述べたが、その中で日本語教育関係の科目は Teaching Japanese as a Second Language の一科目のみとなっている。卒業後、すぐ教員になるということを考えると、これでは内容的に少ないと思われる。

③他の科目とのバランス上多いと思われる科目、内容が似た科目がある。

前項で日本社会・文化に関する科目が多いと述べたが、日本語教育関係の科目の少なさから見るとバランス的にやや多い感がある。また、Independents Study Related to Japan、Seminar in Japanese Society and Culture は内容的に大きな違いがないと思われる。

④Japanese Reading と Japanese Writing

読みと書きも他の技能と同様、継続して学習する必要があり、また相互に関連付けて学ぶことのできる科目である。そのような観点から、2 年生で読みのみ、3 年生で書きのみを学ぶというのは適切ではなく、両技能を合わせたクラスを 2、3 年生で開講することが望ましい。なお、現在も上記科目名で読み書き両技能を扱うクラスとしている。

⑤Basic Japanese Conversation と Japanese for Communication

ともに会話のクラスで、その内容は継続的であり、コース名を変える必要性はあまり感じられない。

⑥履修時期が適切でないものがある。

Japanese Phonetics が 1 年生前期に入っているが、この時期はまだ形容詞や動詞の活用形がすべて学習済みであるわけではないため、発音・アクセント指導等が困難である。また、Kanji Studies は、漢字を学びながら漢字の教え方についても考えるというクラスだが、1 年生の後期ではまだ漢字学習期間が浅いため、この時期では多少早いと思われる。

5. カリキュラム改定案

前章で述べたような問題点を鑑み、改定案を作成した⁽⁴⁾ (表 3)。改定案はまず日本語教育プログラム長との検討の後、外部評価者 3 名に送り、コメントをもらった。そのコメントを参考に再度プログラム内の日本語教師、プログラム長と共に検討を重ね、最終的にこの改定案に至った。

以下に改定案における変更点と特徴を述べる。

①授業時間数

総合日本語のクラス (Japanese for Teachers、Academic Japanese) や一部の科目を除き、単位数と時間数を同じ数にした (例: 3 単位 3 時間)。それにより、総授業時間数が 2670 時間となり、他大学の中で授業時間数の最も多い大学と同程度になった。しかし、日本語関連科目の授業時間数を減らすことによって総時間数を減らしたため、日本語関連科目の授業時間数は 1785 時間から 1425 時間に減ることになった。ここには日本語教授法や日本事情関係の科目も入っており、語学としての日本語の授業時間は 1020 時間となるが、これは日本語主専攻のコースと比べると 200～600 時間ほど少ないことになる。日本語能力を他の日本語専攻並に引き上げるためには、この時間数は学生の自宅学習でカバーされなければならない。そのためにも、学生の日本語学習への目的意識を高め、自律的に学ぶ姿勢を養うことが必要であろう。

②専門選択科目の設置

3 年生後期、4 年生後期に専門選択科目を設置した。2 学年の学生が分かれて興味のある科目を取るようになる。ただし、教員側のマンパワーの問題もあり、すべての科目を毎年開講することはできないため、その年の希望者の数によって開講科目を 2～4 科目決定することになるだろう。

③日本語教育関係の科目の追加

現在開講されている Teaching Japanese as a Second Language に、Development of Japanese Curriculum and Instructional Materials、Measurement and Evaluation in Teaching Japanese as a Second Language の二科目を追加した。開講時期は、カリキュラム・教材について理解した上で、教案作成や模擬授業もある教授法のクラス、その後、テストの作成も含む評価法と進むように、Development of Japanese Curriculum and Instructional Materials、Teaching Japanese as a Second Language、Measurement and Evaluation in Teaching Japanese as a Second Language の順に設定した。旧カリキュラムから開講されている Kanji Studies も漢字の教え方を学ぶ内容を含んでおり、Research in Japanese Classroom も教室運営、共同的学习など、日本語の教室における様々な問題について取り上げ、それを解決するためにどうしたらいいかを考えるクラスである。上記科目の追加により、日本語教授法関係の科目がかなり充実したことになる。

なお、教師養成に特化したコースであるため、翻訳、通訳、観光日本語、ビジネス日本語、ホテル日本語のような目的別科目は改定後も入れていない。

④その他の科目の追加・削除・統合

a. Independents Study Related to Japan と Seminar in Japanese Society and Culture を Seminar in Japanese Studies として統合した。

b. Introduction to Japanese Culture と Contemporary Japan を Social and Cultural Analysis of Japan として統合した。これまで日本文化、日本事情関係の科目が 4 科目あったが、改定により Social and

Cultural Analysis of Japan と Seminar in Japanese Studies の 2 科目になる。日本文化理解は他のクラスの中でも扱うことが可能であり、この科目数でも内容的に大きな問題はないと考える。

c. Japanese Structure、Japanese for Cultural Education、Sociolinguistics (Language in Japanese Society から科目名を変更) を必須科目ではなく、新たに作った専門選択科目とした。

d. 4 年次の Japanese Conversation and Discussion I と Usage of Japanese は、人文社会学部で履修することになっている科目だが、これを廃止し、Academic Japanese を新設した。これは、3 年次までの Japanese for Teachers に続くもので、2 級レベルの文型学習の他、発表やレポートなども含んだより上のレベルの日本語を総合的に学ぶクラスで、同時に自律的学習能力を養うことも目標としている。

⑤コース名変更

a. Japanese Reading と Japanese Writing を Japanese Comprehensive Reading and Writing とし、読み書き両技能を扱う実際の内容に即したものとした。2、3 年次で履修する。

b. 継続的な会話コースであるということを明確にするため、Basic Japanese Conversation を 2、3 年生同様 Japanese for Communication という科目名にした。なお、1 年生前期に関しては、総合日本語クラス (Japanese for Teachers) が始まったところで、会話のクラスで扱える内容が少ないため、2 単位 2 時間とした。1~3 年次で履修する。

⑥履修時期の変更

Japanese Phonetics を 1 年生前期から後期に、Kanji Studies は 1 年生後期から 2 年生前期に変更した。また、1 年生前期の履修単位数、時間数が少なくなったため、Education in Japan を 1 年生前期に変更した。

6. おわりに

コンケン大学教育学部日本語教育プログラムができて 3 年であるが、まだ課題は多くあり、その一つがカリキュラムである。実は、大きな問題として大学内の制度上の問題がある。現在、本プログラムの学生は、総合日本語のコースなど 8 科目は人文社会学部で開講している科目を履修しているが、これらを教育学部で開講する Japanese for Teachers、Academic Japanese に変更し、すべて教育学部で教えようと考えている。しかし、他学部も関係する改定は容易ではなく、改定には時間がかかることが予想され、あるいはこの部分に関しては実現に至らない可能性も捨てきれない。しかしながら、今回、タイで初めての日本語教育専攻として作成したカリキュラム案について報告することで、少しでも後に続く大学の参考になればと思う。今後、新たに他大学で日本語教育専攻が開設された後には、カリキュラム研究が進むことを期待する。

一方で、カリキュラムについて考える際に、別の観点からもう一つ考えるべき問題がある。上述の通り、タイでは中等教育機関での日本語学習者数が大きな伸びを見せており、それらの学習

者が大学でも日本語を学ぶ可能性がある。大学の中には、チュラロンコン大学のように日本語の既習者のみを受け入れている大学もあるが、コンケン大学教育学部日本語教育プログラムでは中等教育機関で日本語を学んだことのない学生も受け入れている。そのため、新入生は日本語の既習者と未習者が混在することになるが、本プログラムでは既習者のために特別な措置は取っていないため、入学前に勉強していても未習者と同じクラスでゼロから勉強を始めているのが実情である。今後は、増加する既習者の扱いをどうするかを考えていくべきであろう。例えば、既習者には入学時にテストを実施し、その結果で上のクラスから履修することを可能にすれば、現在の制度下よりさらに上のレベルに到達することができるかもしれない。能力判定は日本語能力試験の結果を参考にしてもいいだろう。このシラバスにした場合、卒業に必要な単位数に満たなくなるが、選択科目等で補うなどの措置が考えられよう。ただし、既習者の数によっては彼らが加わるクラスの人数がかなり多くなることも考えられ、2クラスに分けるなどの柔軟な対応が求められることになるため、大学側の理解も必要になってくる。解決しなくてはいけない課題は多いが、学習者の利益のために今後の検討を期待したい。

注

- (1) 他の専攻の場合、教育学部で1年間教職科目を履修すれば、教員資格が与えられる。
- (2) 10年間開講された後、いったん休止したが、2006年より再開している。10ヶ月間のコースで、定員20名である。
- (3) タイ全体及びタイ東北地方の文化・伝統・芸術等について日本語で説明したり、研究したりできるようになることを目標としている。
- (4) 学部内の都合で2007年3月現在、改定案はまだ承認されていない。2008年度には教育学部内のカリキュラム改革が実施される予定であり、最終的な改定はその時期にまでずれ込む可能性がある。現在、改定できるところからすでに少しずつ改定してもらっているが、すべてがこの形になるにはまだ時間がかかるものと思われる。その間、カリキュラムもさらに検討されることになり、最終的にはこの案から変更される可能性もある。

参考文献

- 池田隆 (2005) 「ウボンラチャタニ大学教養学部日本語学科開設に向けての動き」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第2号、国際交流基金バンコク日本文化センター、121-130
- 小西広明 (2003) 「タイの高等教育機関におけるカリキュラム—ナレースワン大学を例として—」『国際交流基金バンコク日本語センター紀要』第6号、国際交流基金バンコク日本語センター、19-35
- 国際交流基金「海外における日本語教育」『国際交流基金』
<http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/survey.html>2007年2月9日

表2 コンケン大学教育学部日本語教育プログラム旧カリキュラム

	科目	単位	時間
1年前期	Japanese I	3	4
	Basic Japanese Conversation I	3	4
	Japanese Phonetics	3	4
	Introduction to Japanese Culture	3	4
	Speech Communication	2	3
	English for Humanities and Social Sciences I	3	3
	Information Literacy	2	2
	1年前期計	19	24
1年後期	Japanese II	3	4
	Basic Japanese Conversation II	3	4
	Kanji Studies	3	3
	Introduction to Computer for Education	3	4
	Human and Civilization	3	3
	Usage of Thai Language	3	3
	English for Humanities and Social Sciences II	3	3
	1年後期計	21	24
2年前期	Intermediate Japanese I	3	4
	Japanese for Communication I	3	4
	Japanese Reading I	3	4
	Ethics for Teaching Profession	2	2
	Introduction to Philosophy of Education	2	2
	Human Development	2	2
	English for Communication I	3	3
	2年前期計	18	21
2年後期	Intermediate Japanese II	3	4
	Japanese for Communication II	3	4
	Japanese Reading II	3	4
	Contemporary Japan	3	3
	Orientation to Education	1	1
	Teaching Profession Experience I	1	1
	Mathematics, Science and Environmental education Literacy (一般教養)	3	4
	2年後期計	20	24
3年前期	Intermediate Japanese III	3	4
	Japanese Writing I	3	4
	Japanese Structure	3	4
	Language in Japanese Society	3	3
	Measurement and Evaluation in Education	2	2
	School Management	2	2
	Special Education	2	2
	Teaching Profession Experience (一般教養)	2	3
	3年前期計	22	26
	3年後期	Intermediate Japanese IV	3
Japanese Writing II		3	4
Japanese Listening Comprehension		3	4
Technology and Educational Media		3	4
Organization of Learning process		3	4
Community and Educational Development		2	2
English for Teaching Profession		3	4
Psychology of Learning and Teaching		2	2
3年後期計		22	28

4年前期	Education in Japan	3	4
	Teaching Japanese as a Second Language	3	4
	Japanese for Cultural Education	3	4
	Japanese Conversation and Discussion I	2	3
	Statistics and Research in Education	3	3
	Teaching Profession Experience III (自由選択科目)	2	3
	(一般教養)	3	3
	4年前期計	21	26
4年後期	Japanese from Audio-Visual Media	3	4
	Usage of Japanese	2	3
	Independents Study Related to Japan	3	6
	Research in Japanese Classroom	3	4
	Seminar in Japanese Society and Culture	3	6
	Curriculum Development (自由選択科目)	2	2
	(一般教養)	3	3
4年後期計	19	28	
5年前期	School Internship I	6	12
5年後期	School Internship II	6	12
	5年計	12	24
	総計	170	225

表3 コンケン大学教育学部日本語教育プログラムカリキュラム改定案

	科目	単位	時間
1年前期	Japanese for Teachers I	3	4
	Japanese for Communication I	2	2
	Education in Japan	2	2
	Speech Communication	2	3
	English for Humanities and Social Sciences I	3	3
	Information Literacy	2	2
	1年前期計	14	16
1年後期	Japanese for Teachers II	3	4
	Japanese for Communication II	3	3
	Japanese Phonetics	3	3
	Introduction to Computer for Education	3	4
	Human and Civilization	3	3
	Usage of Thai Language	3	3
	English for Humanities and Social Sciences II	3	3
1年後期計	21	23	
2年前期	Japanese for Teachers III	3	4
	Japanese for Communication III	3	3
	Japanese Comprehensive Reading and Writing I	3	3
	Kanji Studies	3	3
	Ethics for Teaching Profession	2	2
	Introduction to Philosophy of Education	2	2
	Human Development	2	2
	English for Communication I	3	3
2年前期計	21	22	
2年後期	Japanese for Teachers IV	3	4
	Japanese for Communication IV	3	3
	Japanese Comprehensive Reading and Writing II	3	3
	Social and Cultural Analysis of Japan	3	3
	Orientation to Education	1	1
	Teaching Profession Experience I	1	2
	Mathematics, Science and Environmental education Literacy (一般教養)	3	4
	(一般教養)	3	3
2年後期計	20	23	

3年前期	Japanese for Teachers V	3	4	
	Japanese for Communication V	3	3	
	Japanese Comprehensive Reading and Writing III	3	3	
	Development of Japanese Curriculum and Instructional Materials	3	3	
	Measurement and Evaluation in Education	2	2	
	School Management	2	2	
	Special Education	2	2	
	Teaching Profession Experience II (一般教養)	2	3	
		2	2	
	3年前期計	19	24	
3年後期	Japanese for Teachers VI	3	4	
	Japanese for Communication VI	3	3	
	Japanese Comprehensive Reading and Writing IV (Major Elective Course)	3	3	
	Organization of Learning process	3	4	
	Community and Educational Development	2	2	
	English for Teaching Profession	3	4	
	Psychology of Learning and Teaching	2	2	
		3年後期計	19	25
4年前期	Academic Japanese I	2	3	
	Japanese from Audio-Visual Media	3	3	
	Teaching Japanese as a Second Language	3	4	
	Technology and Educational Media	3	4	
	Statistics and Research in Education	3	3	
	Teaching Profession Experience III (自由選択科目)	2	3	
		3	3	
		2	2	
		4年前期計	21	25
4年後期	Academic Japanese II	2	3	
	Measurement and Evaluation in Teaching Japanese as a Second Language	2	2	
	Research in Japanese Classroom	2	3	
	Seminar in Japanese Studies (Major Elective Course)	3	4	
		3	3	
	Curriculum Development (自由選択科目)	2	2	
		3	3	
		4年後期計	17	20
5年前期	School Internship I	6	12	
5年後期	School Internship II	6	12	
	5年計	12	24	
		170	202	

専門選択科目 (Major Elective Courses) : 3年生後期、4年生後期で以下の中から6単位履修

1 Japanese Structure	3	3
2 Japanese for Cultural Education	3	3
3 Teaching Japanese as a Second Language II	3	3
4 Contrastive Study of Japanese and Thai	3	3
5 Japanese Literature	2	2
6 Acquisition of Japanese as a Second Language	2	2
7 Sociolinguistics	2	2